

この時季 気になるこの 症状

毎年3月第2木曜日は「世界腎臓デー」。慢性腎臓病（CKD）を放置して腎機能低下が進み、腎不全に至ると人工透析や腎移植が必要になる。CKDの初期は症状がほとんどないので、早期発見には健診結果に注意しておくことが重要だ。



腎臓病に詳しい「みたかの森クリニック」（東京都武蔵野市）の菊池太陽院長「顔写真」が説明する。

【心臓病の危険因子】
「CKD」とは、何らかの腎障害が慢性的に持続している病態の総称を言う。原因となる疾患には、糖尿病、高血圧、慢性腎炎などがあり、国内の推定患者は約1300万人とされている。

慢性腎臓病

ほぼ無症状で進行 健診で早期発見を

《CKDで透析になる主な原疾患》

- ①糖尿病性腎症 ……43.5%
- ②慢性腎炎（主にIgA腎症） ……17.8%
- ③腎硬化症（高血圧が原因） ……14.2%
- ④不明 ……11.3%
- ⑤多発性嚢胞腎 ……2.7%
- ⑥急速進行性糸球体腎炎 ……1.4%

※日本透析学会2014年調べ

「成人の8人に1人が透析を必要とする腎不全の予備軍です。また、CKDは透析に至るリスクである以前に、心臓や血管に負担を与え、心筋梗塞や脳卒中の発症を高めることが怖いのです」

【検査項目に注目】
CKDはほぼ無症状で進行し、腎機能が正常の45〜30%未満になって初めて、むくみや高血圧が現れるが、透析直

前まで症状が分からないこともある。早期発見には健診で疑いを見つけるしかない。

「CKDの疑いは、血清クレアチニン（血液検査）から計算される推算GFRと尿タンパク（尿検査）で分かります。検査項目に血清クレアチニンがない健診もみられますので、追加で検査してもらうことが大切です」



人工透析の現場—みたかの森クリニック

「治療可能なIgA腎症など見つけるには尿の異常の早期発見が必要で、腎臓内科医が診ないと見逃されるケースもあります。また、一般診療でも腎疾患に対して適切な検査が行われていないケースもあります」

【機能10%以下は透析】
慢性腎炎（IgA腎症など）の疑いがあるCKDは、正確な病理診断と有効な治療法を確定するために、腎生検（針を刺して組織を取る）を行う。「CKDは早期発見、早期治療で寛解（進行せず、安定した状態）する疾患も含まれています。ある程度腎臓の破壊が進行したCKDは腎機能の復元は難しいですが、治療の継続で透析を避けられる可能性はあります」

腎機能の低下が15%未満になると末期腎不全と診断され、10%以下になると透析や腎移植をする基準となっている。血液透析になると、週3回通院して1回4〜5時間かかるので大変だ。

「腎機能を測る推算GFRはインターネットで検索すれば計算式が出ています。医者任せにせず、腎機能を自分で調べて知っておくことも大事だと思います」